

## 「台湾の企業活動を牽引する半導体電子関連産業が絶好調」

人事コンサルティング、日本企業の台湾新進出事前調査、台湾現地法人の設立、運営サポート業務等を中心としたサービスを提供。日本の良き隣人「台湾」に関することなら、築いてきた人脈と自身の経験値を基に懇切丁寧にサポート。



### <2024年第3四半期台湾企業決算最新情報>

台湾の企業決算報告は一般的には1月から3月までを第1四半期としています。その為、10月初旬は7月から9月までの第3四半期における決算報告が出揃う時期です。その結果については経済新聞、株式情報関連ウェブサイト等の各マスコミを通じて大々的に報じられています。

現在台湾の金融監督管理委員会が公表している台湾証券取引所上場企業は1,018社、証券店頭売買センター株式企業は825社あるとのこと。これらの企業を対象に集計した今年9月の単独月での総売上高は4.06兆元を記録し、月間売上高としては過去三番目に高い水準でした。また今年の第3四半期における総売上高は11.76兆元と四半期における3か月単期総売上高としては過去最高を記録したとのこと。

このように活発な企業活動を牽引している原動力が半導体電子関連産業に携わっている企業群です。特にAI機器関連のサーバーや次世代半導体品に関しては今後益々需要供給が伸びていくとの見方で、こうした分野に関わる企業が少なくない台湾では今後も安定した企業活動が期待できるとの見方をしています。特に近々では3ナノ半導体品についてアップル社、メディアテック（聯發科）社、クアルコム社、インテル社、アドバンス・マイクロ・デバイス社、エヌビデオ・コーポレーションから台積電（TSMC）社に発注が相次いでいることも話題になっております。

こうした台湾の上場店頭売買株式企業の業績が出揃った中で9月の売上高トップ5の企業としてiPhone16の受託製造で知られた鴻海精密工業（7,330.23億元/第3四半期売上1.85兆元）、台積電（2,518.72億元/第3四半期売上7,597.39億元）、PC、スマホ、サーバー、AI医療機器の広達電腦（1,551.09億元/第3四半期売上4,245.49億元）、電子製品の和碩（1,092.4億元/第3四半期売上2,942.97億元）、半導体電子部品の大聯大（1,056.7億元/第3四半期売上2,590.7億元）が紹介されてい

ます。いずれの企業も半導体電子精密機器産業に携わっており、こうした上位の企業以外にも業績を伸ばし注目されているのが情報通信技術製品の緯創資通（ウイストロン）、パソコンやスマートフォンの周辺機器製造の華碩（ASUS）、AI半導体関連機器の臻鼎科技、AI人口知能機器の智邦科技や精密光学レンズ機器の大立光電といった企業です。また業種別では海運業の長榮（エバークグリーン）や萬海航運、食品製造加工流通小売りで知られた統一グループ、金融関係では元大金控ホールディングス、ファッションインダストリーの聚陽實業といった企業も業績好調で注目の企業とのこと。もちろん、他にも業績好調な企業も少なくないので、第4四半期についても概ね好調な企業活動が継続するとの見方です。

### <山陽山陰中国地方5県観光商談会>

話は少し変わりますが、台湾では毎年中国地方5県による観光商談会が開催されています。今年は8月29日に台北市のシーザーパークホテルで台湾にある多数の旅行会社関係者を招待し開催されました。中でも広島県はインスタ映えする観光スポットを中心に台湾ローカルの旅行会社にアピール、翌日の旅行会社訪問でもこうした広島の観光スポットに改めて興味を示す旅行会社がありました。

こうした地道なPR活動のおかげで最近では以前にも増して広島観光紹介ウェブサイトが増えています。また台湾企業の女性向け情報発信ウェブサイトでも広島のお土産特集が掲載されており、台湾の人達が広島のお土産を目にする機会が増えました。その結果、台湾の日系デパートで開催される日本商品展にもウェブサイトで紹介された広島のお土産品が出品、販売されています。

広島観光も好調であることを期待します。



【山陽山陰中国地方5県観光商談会の様子】